

第71回 令和3年度

河北文化賞



公益財団法人 河北文化事業団



公益財団法人河北文化事業団理事長

河北文化賞について

一 力 雅 彦

河北文化賞は、東北に住む人々の生活、文化の向上を願い、東北の学術、芸術、体育、産業、社会活動の5部門で顕著な業績を挙げた個人、団体を顕彰しようと、河北新報社が昭和26年に創設いたしました。

地域の発展は、産業の振興を基盤としつつも、それを担う住民の生活の安定、さらには文化、教育といった分野の充実も欠かせない要素です。河北新報社はいち早くそうした点に着目、東北という大きな視座に立ち、第一線でたゆまぬ活動を続ける個人、団体をたたえ、励まして参りました。

昭和30年に事業主体を財団法人河北文化事業団（平成25年1月から公益財団法人）へと引き継ぎ、その後、東北放送、財団法人東北放送文化事業団（同年9月から公益財団法人）の参画を得て今日に至りました。東北に根差した文化賞として歩み続け、今回の贈呈式で71回となります。

河北文化賞の創設から60年目の平成23年3月11日、東日本大震災が発生。宮城、岩手、福島の3県を中心に、地震と津波、原発事故による甚大な被害もたらされました。あの日から間もなく11年がたとうとしています。被災地ではインフラなどハード面の復旧・復興はある程度終わりましたが、コミュニケーションの再建、心の復興といった課題は残っており、真の復興はまだ道半ばです。

また、一昨年から世界で流行が始まった新型コロナウイルス感染症は、変異株が次々出現するなど今も海外を中心に終息に

至っていません。国内では一度は延期された東京五輪・パラリンピックが昨年無事に開催されましたが、人々の感染拡大への不安は根強く、日常生活や経済活動は閉塞感に包まれています。この状況下で、東北の人々はさらに心をひとつとし、手を携えて前へ進まなければなりません。

河北文化賞は、地道な業績を積み重ね、東北の発展に尽力し、人々の幸せに寄与した方々を顕彰して参りました。これまでの受賞者各位のたゆまざる研鑽（さん）が東北の向上に貢献し、ひいてはわが国発展の礎石となっていることを振り返るまでもなく、今後の東北振興の一助になり得ると信じます。

河北新報は明治30年1月17日、古くは大和朝廷から「蝦夷（えぞ）」と蔑視され、下つては薩長などによる明治政府からも「賊軍」「一山百文」と軽視された白河以北の振興を図ろうと、東北振興、不羈独立を社是に創刊されました。東北の次代に向け、さらなる歩みを誓う125周年を迎えた本日、第71回河北文化賞の贈呈式を開催できますことを大変感慨深く受け止めております。

河北文化事業団をはじめ河北文化賞主宰団体は、この創刊の意義をかみしめながら、東北を愛し、発展させる視点で、これからも優れた業績の発掘とその顕彰に努めて参る所存です。

第71回河北文化賞受賞者とその業績

整形外科用の革新的なチタン合金製インプラントの開発への貢献

東北大学名誉教授 花 田 修 治さん(80)

(推挙者 東北大学総長 大野 英男)

変形性関節症などの治療で使われる人工股関節の部品「ステム」は、大腿(だいたい)骨に埋める先端側は骨を痛めない柔らかさが、骨盤側は体重を支える高い強度が求められる。普通の金属では相反



チタン合金を用いた人工股関節を示す花田さん

する性能を専門分野のチタン合金加工の応用で両立させ、長期間使える画期的な人工股関節の開発に成功した。

開発に乗り出したのは、東北大金属材料研究所を定年退職した2005年。「雑務から解放

され金研で研究に打ち込める。誰も成功していない難しい金属をやろうと考えた」と振り返る。医療機器は欧米製品のシェアが高いが「日本の技術でやりたい」と一念発起した。

従来の製品は骨盤側の強度を優先し先端側は硬いままだったため、骨折したり固定が緩んだりするリスクがあった。チタンとニオブ、スズの合金を加工後、一部を熱処理することで骨盤側は高強度、先端側は柔らかい材質を実現。東北大病院などでの治験を経て21年に薬事承認を得た。

「使われてこそ材料」が金属を扱う研究者としてのモットー。「東北大が蓄積した技術、地元の医療機関や企業との連携が結実した」と周囲に感謝する。

はなだ・しゅうじ 1941年愛知県生まれ。東北大学院工学研究科博士課程修了。専門は材料科学。87年東北大金属材料研究所教授。2000年と04年に日本金属学会副会長を務めた。

多年にわたり日本画界の発展と文化芸術の向上に寄与

日本画家 小野 恬さん(87)

(推荐者 宮城県知事 村井嘉浩)

1959年の河北美術展に初出品で入選し、院展の入賞は30回以上。三島学園女子大(現東北生活文化大)で長年、美術教育にも注力してきた。受賞の知らせに「自分の内面の世界を描いてきた

だけ。思いもよ
らなかつた」と
謙遜する。



仙台市の自宅で代表作の一つ「揺れる」と並んで画業を振り返る小野さん

母で日本画家の故莊司福さん
第12回河北文
化賞受賞Ⅱの影
響を受け、日本
画の世界に入っ
た。福さんが絵
の具を溶く姿を
見て育ち、作品
のモデルも務め
た。

母子での受賞に「母は厳しい人だから『あんたみたいなのも
らっていいの?』って驚くわね」と話す。

教育や制作の傍ら、横浜市で暮らす福さんの介護のため仙台の自
宅と往復する生活が長く続いた。多忙を極めたが、寝る時間を削っ
ても絵筆を握った。「母のベッドの横で院展に出す作品に取り組
んだ。つらいときも、悲しいときも絵に救われた」

若い女性を題材に、東北の風土や自身の心象を表現してきた。白
を効果的に使った作品は静けさや清らかさに満ちている。「白は東
北をイメージさせる色。私の作品には必ず入っているの」とほほ笑
む。

おの・しづ 1934年仙台市生まれ。宮城一女高、東北大
文学部東洋美術史学科卒。三島学園女子大助教などを務めた。
日本美術院特待、宮城県芸術協会名誉会員、河北美術展参与。

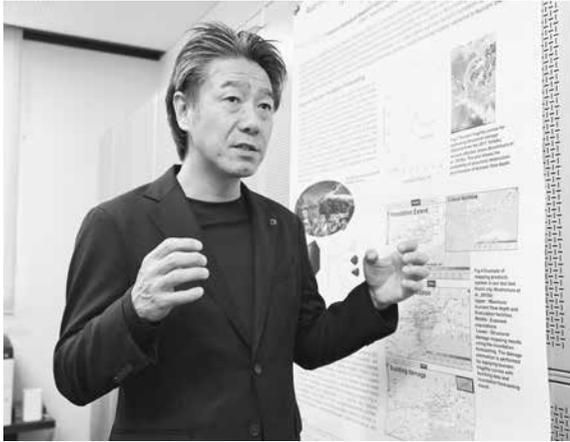
リアルタイム津波浸水被害予測システムの開発と運用による災害レジリエンス向上への貢献

東北大学災害科学国際研究所教授

越 村 俊 一 さん(49)

(推挙者 東北大学総長 大野 英 男)

あの日は仕事で東京にいた。急いでレンタカーを借りて仙台に戻る。「どんな津波規模で一体どれほどの被害が出たのか」。ラジオを聞く限り、誰も全体像はつかめていなかった。



研究成果について語る越村さん

すぐに被害を予測すれば的確に救援・復旧活動ができて回復が早まる……。開発を主導したのが、2018年から内閣府の総合防災情報システムに導入されている「リアルタイム津波浸水被害予測システム」だ。

大地震や津波警報で自動的に稼働。東北大と大阪大のスーパーコンピュータで津波の規模を計算し、10メートル四方ごとに浸水範囲、深さ、浸水域内の人口や建物被害を推計する。通常のコンピュータなら数日かかる作業を地震発生後30分以内に情報配信できる。04年のスマトラ沖地震で「津波被害予測を社会に役立てたい」と発起。東日本大震災後は産学連携を進め、システムを担うベンチャー企業も興じた。

南海トラフ巨大地震などに備え太平洋沿岸全域で運用し、22年度には日本海側東沿部でも運用を始める。最終目標は「人の命を守る情報提供。津波がここまで来るといふ『津波浸水予報』のレベルまで技術を高めたい」と一層の飛躍を誓う。

こしむら・しゅんいち 1972年川崎市出身。東北大学院工学研究科博士課程修了。人と防災未来センター専任研究員、東北大学院准教授などを経て2012年から現職。同大総長特別補佐も務める。

「仙台・江戸学」の講座開催および叢書発行による地域貢献

国宝大崎八幡宮 仙台・江戸学実行委員会

(推挙者 仙台大学客員教授、元宮城県図書館館長 伊達宗弘)

仙台の礎を築いた仙台藩の歴史を学ぼうと、国宝の大崎八幡宮(仙台市青葉区)を中心とする実行委員会が「仙台・江戸学」講座を主催し、その内容を叢書(そうしよ)として刊行している。

仙台藩祖伊達政宗は1601(慶長

6)年に仙台城と城

下町を造り始め、6

年後には人々の祈り

の場として大崎八幡

宮を創建する。

400年後の

2007年から10年

間、大崎八幡宮で全

76回の講座を開い

た。元市博物館長の

浜田直嗣氏や研究

者、学芸員らが講師



「仙台・江戸学叢書」を手にする実行委代表の小野日宮司

を務め、武家や庶民、文学、食など多様な切り口で紹介。各回数十人(約100人)が聴講し、知見を深めた。

叢書の編集は企画会社「南北社」(青葉区)が担当。全77巻のうち、56巻を刊行した。1冊約70ページに多くの写真や図版も盛り込み、読みやすさと資料的価値を兼ね備える。

(入そめて 国ゆたかなる みざりとや

千代とかぎらじ せんだいのまつ)

政宗は仙台の末永い繁栄を願い、この和歌を詠んだ。

実行委代表で大崎八幡宮の小野目博昭宮司(71)は「政宗公をはじめとする先人の知恵や心を広く共有し、気付きを得たり、歴史を掘り起こしたりしてほしい」と次代への継承を願う。

国宝大崎八幡宮 仙台・江戸学実行委員会 2007年発足。メンバーは大崎八幡宮の役員・総代ら約15人。叢書は1巻600(800円(税抜き)。大崎八幡宮や金港堂本店(青葉区)などで購入できる。

東日本大震災と原発事故を受けた住民の健康維持と、医療関連産業の集積による復興加速化

福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センター

（推挙者 福島県立医科大学理事長兼学長 竹之下 誠 一）

福島県立医大（福島市）内に2012年11月、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故からの復興に向けた医療拠点として設立された。最先端の医療設備や研究体制を整え、研究者や医療従事者らの育成に力を入れる。

原発事故による被ばくなどの影響を調べる県民健康調査や妊産婦



ふくしま国際医療科学センターが入る福島県立医大

の調査も担う。避難先から安心して帰還できるように学内に「ふたば救急総合医療支援センター」も設置し、医師を現地に派遣するなど地域医療を支える。

放射性物質「アスタチン」の力でがん細胞を破壊するがん治療の実用化を進める。研究の蓄積を生かし、新型コロナウイルスに感染した元患者の血液から感染を防ぐ能力がある中和抗体などを発見。予防効果の高いマスクや抗体スプレーの開発につなげた。

約700人の職員が在籍。挟間章博センター長は「原発事故から得た教訓は世界の人々とも共有すべき財産だ。福島から正しい情報を発信することが県民の安心にもつながる」と語る。

ふくしま国際医療科学センター ①健康の見守り ②高度医療の提供 ③先端研究の推進と産業復興——の三つの柱で運営。医薬品開発や県民健康調査、先端診療、教育・人材育成を担う。

2020年東京五輪卓球男子団体で銅メダル

卓球選手 張 本 智 和さん(18)

推挙者

宮 城 県 知 事 村 井 嘉 浩
仙 台 市 振 興 事 業 団 理 事 長 佐 藤 良 一
仙 台 市 スポーツ 協 会 会 長 柴 田 幸 男
宮 城 県 卓 球 協 会 会 長 柴 田 幸 男

東京五輪で日本男子2大会連続のメダル獲得に貢献した。自身の

単複6試合を全勝。韓国との3位決定戦は相手エースを圧倒した。

「一球も諦めない姿を見せられた」。責任を果たし、試合後の表情は



男子団体3位決定戦で力強いプレーを見せる張本さん
=21年8月6日、東京・東京体育館

ほっとしていた。

世界ランキング4位(当時)で臨んだ個人戦は、4回戦で格下相手に負けた。団体まで中5日。悔しさはいっとき胸にしまい、「気持ちを整理した」。徐々に調子を上上げ、最後は躍動感ある姿を取り戻した。

13歳で世界選手権個人戦8強、14歳で全日本選手権優勝と、数々の最年少記録を打ち立ててきた。日本のエースとしてメダルを期待され、重圧がのし掛かっていた。「最低限の仕事はできた」。記者会見で解放されたように語った。

自身初の五輪は「悔しさが9割」と言う。2024年パリ五輪では、個人戦のメダルをつかみに行く。

はりもと・ともかず 2003年仙台市生まれ。JOCエリートアカデミー出身。16年世界ジュニア選手権優勝。176センチ。

2020年東京パラリンピックバドミントン女子で銀、銅メダル

パラバドミントン選手 鈴木 木 亜弥子さん(34)

推挙者

宮 城 県 知 事 村 井 嘉 浩
仙台市スポーツ振興事業団理事長 長 郡 藤 和 子
日本パラバドミントン連盟理事長 平 野 良 一
七十七銀行取締役頭取 小 林 英 文

パラバドミントンの第一人者として二つのメダルを手にした。

「やり切ったと言いつける。合格です」。シングルスで銀、女子ダブルスで銅。頂点にはあと一歩届かなかったが、苦しみ、耐え抜いた



女子シングルス決勝でレシーブする鈴木さん
=21年9月4日、東京・国立代々木競技場

過程があったからこそその充実感が漂う。

生まれつき右腕に機能障害がある。パラの舞台で世界選手権、アジア大会を制し、2010年に一度はラケットを置いた。東京大会で初採用されることを受け「目指さなかったら後悔する」と、5年のブランクを経て現役に復帰した。

16年、七十七銀行に入った後は走り込みで息が上がるなど苦勞した。同僚の励ましもあり、厳しい練習を乗り越えて世界ランク1位まで上り詰めた。

昨年暮れに引退し、今後は普及活動に力を入れる。「東京大会はパラスポーツを知ってもらいたい機会になった。この経験を次世代の選手に伝えたい」。競技への熱は冷めない。

すぎき・あやこ 埼玉県出身。高校時代に全国大会で準優勝し、東京経大入学後にパラ競技へ転向。クラスは上肢障害SU5。

2020年東京パラリンピック車いすバスケットボール男子で銀メダル

車いすバスケットボール選手 豊島 英さん(32)

推挙者

宮城県知事 村井嘉浩
仙台市スポーツ振興事業団理事長 佐藤和子
宮城県障害者スポーツ協会理事長 小玉一彦

13日間の熱戦の締めくくりにふさわしい激闘だった。米国を相手に

一歩も譲らぬ真つ向勝負の末、4点差で世界一を逃した。それでも「思った以上に米国の背中が近くて、接戦に持ち込めた」。男子



コロンビア戦でプレーする豊島さん
=21年8月26日、東京・武蔵野の森総合スポーツプラザ

初の銀メダルに笑みがこぼれた。

自身3度目のパラリンピックを主将として迎えた。世界の壁にはね返された過去2回とは明らかに違う。「日本が世界に通用することを実感できた」。コロナ禍に伴う1年の延期は、チーム一丸となって成長するための時間に充てた。

「守備で世界に勝つ」という明確な指針を掲げた。決勝までの8試合で1試合平均失点はわずか60・6点。米国戦も激しい攻防を展開し、王者を最後まで追い詰めた。

持ち味のスピードと統率力で個性派集団を見事に束ねた。「次、頑張れよ」。金メダルの目標は後輩に託し、コートに別れを告げた。

とよしま・あきら いわき市出身。生後4カ月で患った髄膜炎の後遺症で車いす生活を送る。宮城MAXでもプレーした。

2020年東京パラリンピック車いすバスケットボール男子で銀メダル

車いすバスケットボール選手

藤 本 怜 央さん(38)

推挙者

宮 城 県 知 事 村 井 嘉 浩
仙 台 市 振 興 事 業 団 理 事 長 佐 藤 和 子
仙 台 市 スポーツ 振 興 事 業 団 理 事 長 小 玉 一 彦
宮 城 県 障 害 者 スポーツ 協 会 理 事 長

「日本がもっと強くなる手応えを感じた瞬間だった」。米国の勝利

を告げる試合終了のブザーが響く。5大会連続出場の大黒柱は、初めて手にした銀メダルの喜びより、つかみかけた金メダルを逃した



男子決勝でシュートを放つ藤本さん
=21年9月5日、東京・有明アリーナ

悔しさの方が勝っていた。

東北福祉大進学とほぼ同時に競技を始め、宮城MAXではエースとして日本選手権11連覇に貢献した。「宮城でたくさんの方々に支えられた。一つ、結果として恩返しできた」。アスリートの原点となった第2の故郷への思い入れは深い。

「自分で限界を決めてしまったら続かない」が口癖だ。メダルの余韻に浸ることなく、2季ぶりにドイツへ渡り、世界最高峰のプレーを肌で感じている。

チームメートには米国など強豪国の代表選手がそろろう。「普段の練習から学ぶことが多い。成長し続けたい」。肉体も向上心も衰えを知らない。

ふじもと・れお 静岡県出身。小学3年時の交通事故で右膝から下を失った。16年リオデジャネイロ大会で日本選手団主将。

河北文化賞規定

- 第1条 河北文化賞は東北地方の文化の向上、産業の興隆等について貢献顕著な個人もしくは団体に贈る
- 第2条 河北文化賞は学術、芸術、体育、産業、社会活動の5部門とする
- 第3条 河北文化賞の審査年度は前年11月3日に始まり当年11月2日に終わるものとする。ただし緊急性のあるものはこの限りではない
- 第4条 河北文化賞の審査は公益財団法人河北文化事業団理事長の指名する委員会において決定する
- 第5条 河北文化賞は毎年1月1日の河北新報にその前年度分を発表し1月17日に贈呈式を行う
- 第6条 河北文化賞は本賞を賞牌とし、副賞として別途定める賞金を添えて贈呈する
- 第7条 同一業績に対し他の著名賞を受けたもの及び河北文化賞を一度受けたものは原則として除く

河北文化賞

(賞牌)

表紙の写真は故東京芸術大学教授菊池一雄氏の制作による「河北文化賞(賞牌)」で、発展途上にある東北の産業文化にふさわしく、広く文化を象徴する女性に東北の大自然を象徴する山、東北の発展を象徴する産物を配し、希望と野心に満ちた意匠を織り込んである。

記念講演

第71回講演

「東北 on my mind」



国立研究開発法人
産業技術総合研究所
最高顧問
中鉢 良治氏
ちゅうばち りょうじ

1947年宮城県鳴子町（現大崎市）生まれ。東北大学院工学研究科博士課程修了。77年ソニー株式会社入社。記録メディア事業本部ビデオテープ事業部長を務めるなど技術畑を歩み、執行役副社長を経て2005年から代表執行役社長、09年から代表執行役副会長などを歴任。13年、独立行政法人（現国立研究開発法人）産業技術総合研究所理事長に就任、ソニー株式会社取締役退任。20年から同研究所最高顧問、株式会社オフイスRC代表を務める。

第1回 東北大学法務部長 中川善之助	第13回 「不安と治療および救い」 東北大学学長 石津 照壘	第24回 「都市開発と文化」 東北大学教授 佐々木嘉彦
第2回 東北大学名誉教授 熊谷 岱蔵	第14回 「科学の進歩と疾病の 変貌」 東北大学名誉教授 海老名敏明	第25回 「考えて作る楽しみ」 東北大学教授 酒井 高男
第3回 「文化について」 東北大学学長 高橋 里美	第15回 「宇宙開発の現状」 東北大学教授 加藤 愛雄	第26回 「近世の北方問題と 林子平」 文学博士 平 重道
第4回 「古代の東北文化」 文学博士 山田 孝雄	第16回 「明治維新と仙台」 宮城県民会館館長 佐々 久	第27回 「道」 瑞巖寺住職 加藤 隆芳
第5回 「科学者の夢」 東北大学電気 通信研究所長 渡辺 寧	第17回 「戊辰の役考」 作家 大池 唯雄	第28回 「地震と地盤」 東北大学名誉教授 奥津 春生
第6回 「天才と寿命」 東北大学名誉教授 宮城音五郎	第18回 「自然保護と観光開発」 東北大学教授 加藤陸奥雄	第29回 「星の一生」 仙台市天文台台長 小坂由須人
第7回 「考古学上から見た古代の 東北開発」 東北大学教授 伊東 信雄	第19回 「史実からみた伊達騒動」 宮城県文化財専門委員 三原 良吉	第30回 「脳卒中の話」 東北大学教授 鈴木 二郎
第8回 「芳香族の化学について」 東北大学教授 野副 鉄男	第20回 「倫理観の今昔」 東北大学名誉教授 吉田 賢抗	第31回 「半導体と未来社会」 東北大学教授 西澤 潤一
第9回 「ストレス学説について」 東北大学学長 黒川 利雄	第21回 「政宗と常長」 東北大学教授 高橋 富雄	第32回 「ガンの免疫療法」 東北大学教授 石田名香雄
第10回 「栄養と体力並びに寿命」 東北大学農学部学長 有山 恒	第22回 「宝石あれこれ」 東北大学教授 砂川 一郎	第33回 「食物成分の不可思議」 東北大学教授 木村 修一
第11回 「脳と文化」 東北大学医学部長 本川 弘一	第23回 「エネルギーの現状と 将来」 東北電力株式会社 常務取締役 中川理一郎	第34回 「セラミック エージ の夜明け」 東北大学名誉教授 梅屋 薫
第12回 「安楽死の問題」 東北大学名誉教授 木村 亀二		第35回 「東北日本の地震活動・ 地殻変動の特性」 東北大学教授 高木 章雄

<p>第36回 「キリスト教文化と日本文化」 東北学院大学宗教部長 小笠原政敏 「文学にみる女性像」 宮城学院学院長 早坂 禮吾</p> <p>第37回 「戌辰の役と庄内藩」 致道博物館名誉館長 酒井 忠明</p> <p>第38回 「富沢遺跡などに見る東北の古代」 東北福祉大学教授 芹澤 長介</p> <p>第39回 「人工知能は人間の頭脳にどこまで迫れるか」 東北大学工学部教授 木村 正行</p> <p>第40回 「21世紀の新素材」 東北大学教授 増本 健</p> <p>第41回 「東北の国際化を担う空港整備」 運輸省仙台空港長 増子 久弥</p> <p>第42回 「遣欧使節 支倉常長の実相」 東北大学文学部長 渡辺 信夫</p> <p>第43回 「奥州平泉文化の特質」 中尊寺貫主 千田 孝信</p> <p>第44回 「三内丸山遺跡に見る東北の縄文文化」 弘前大学教授 村越 潔</p>	<p>第45回 「思い出の土俵生活」 第二十八代立行司 後藤 悟</p> <p>第46回 「東北の百年」 東北大学名誉教授 高橋 富雄</p> <p>第47回 「国際海洋年と地球温暖化」 東北大学教授 田中 正之</p> <p>第48回 「東北人のこころ」 日銀副総裁 藤原 作弥</p> <p>第49回 「多賀城から鎌倉へ」 東北歴史博物館長 岡田 茂弘</p> <p>第50回 「21世紀の学都仙台」 東北大学総長 阿部 博之</p> <p>第51回 「自然界の不思議―右の世界、左の世界―」 東京大学教授 黒田 玲子</p> <p>第52回 「蝦夷から学ぶリーダー像」 作家 三好 京三</p> <p>第53回 「宮城原沖地震は 本当に来るのか」 東北大学大学院教授 長谷川 昭</p> <p>第54回 「近未来社会とロボット」 情報科学研究科教授 中野 栄二</p> <p>第55回 「衝撃波の出来ない超音速旅客機を目指して」 防衛庁技術研究本部 第三研究官 楠瀬 一洋 前東北大学C/O研究プロジェクトの指導客員教授</p>	<p>第56回 「松島瑞嚴寺と伊達政宗―造営400年を前に―」 文化史家・濱田 直嗣 前仙台市博物館館長</p> <p>第57回 「アクアマリンと シーラカンス最前線」 アクアマリンふくしま館長 安部 義孝</p> <p>第58回 「東北弁とシェイクスピア」 東北学院大学教授 演出家 下館 和巳</p> <p>第59回 「発酵王国・東北の食文化」 東京農業大学 名誉教授 農学博士 小泉 武夫</p> <p>第60回 「脳を鍛える」 東北大学 加齢医学研究所教授 川島 隆太</p> <p>第61回 「平泉の世界遺産登録の意義―東北の復興に向けて―」 東北芸術工科大学 歴史遺産学専攻教授 入間田宣夫</p> <p>第62回 「歴史学と災害科学をつなぐ」 東北大学災害科学 国際研究所長・教授 平川 新</p> <p>第63回 「Respect Each Other」 株式会社案天野球団 代表取締役社長 立花 陽三</p> <p>第64回 「三陸鉄道 復興の取り組み」 三陸鉄道株式会社 代表取締役社長 望月 正彦</p>	<p>第65回 「新しい地震予測に挑む」 東京大学名誉教授・株式会社地震科学探査機構顧問 村井 俊治</p> <p>第66回 「東北新時代―観光推進による東北の未来―」 東京本舗鉄線式紅取縮匠長 清野 智 東北観光推進機構会長</p> <p>第67回 「筆武将伊達政宗」 歴史家・元仙台市博物館長 佐藤 憲一</p> <p>第68回 「脱優等生が創る ニッポンの未来」 慶應義塾大学 先端生命科学研究所長 富田 勝</p> <p>第69回 「研究は人と人と人と人」 山形大学大学院 有機材料システム研究科教授 城戸 淳二</p> <p>第70回 「新型コロナウイルス感染症が我々にもたらしたもの」 東北医薬学大学薬学部感染学専攻主任 東北大学医学部名誉教授 客員教授 賀来 満夫</p>
--	---	---	---

河北文化賞受賞者

Ⅱ 年度順 Ⅱ

<p>第1回受賞者 (昭和26年度)</p> <p>音楽教育と作曲 仙台高校教諭 海鋒 義美</p> <p>東北民家建築の研究と指導 東北大学 工学部教授 小倉 強</p> <p>超短波の研究とその実用化 東北大学 工学部教授 宇田新太郎</p> <p>水田裏作の協同化とその普及 大河原裏作 農協副組合長 太田麻之助</p> <p>中、高等学校漕艇界における稀有の優位と不断の精進 南光学園 東北高校漕艇部</p>	<p>第2回受賞者 (昭和27年度)</p> <p>「国民体力と食」並びに「学童教育」に関する研究と指導 東北大学 医学部教授 近藤 正二</p> <p>ジャガイモの育種研究と品種改良の実績 東北農芸試験場 栽培第二部長 田口 啓彦</p> <p>世界選手権を獲得、卓球界の復興に寄与 青森市在住 佐藤 博治</p> <p>津波及び津波予報の実際的研究 仙台管区氣象台 (並びに元台長故森田稔氏)</p> <p>只見川電源開発の基礎調査を元遂 只見川調査所関係所員</p>	<p>第3回受賞者 (昭和28年度)</p> <p>極超短波時分割多重通信の研究とその実用化 東北大学 工学部教授 永井 健三</p> <p>わが国最高水準にある本荘高校漕艇部に対する不屈不撓の指導 秋田県本荘 高校教諭 作左部 忠</p> <p>東北柔道界発展に対する寄与 柔道8段範士 高橋喜三郎</p> <p>東北の稲作冷害の研究と耐冷性品種の育成 青森県農事 試験場長 田中 稔</p> <p>製鉄用大型傘歯車の修理並びにその国産化 富士製鉄釜石製鉄所工務部 並びに東北大学工学部成瀬研究室</p>	<p>第4回受賞者 (昭和29年度)</p> <p>野兔病に関し親子2代にわたる研究 大原綜合病院長 大原嘗一郎</p> <p>東北の民謡の研究とその採譜 民謡研究者・作曲家 武田忠一郎</p> <p>東北体操界の発展に寄与 秋田県体操協会長 太田口政治</p> <p>公衆衛生事業に顕著な業績をあげ学術的社会的に貢献 宮城県角田保健所長 小島 武雄</p> <p>日本海北部沿岸地方における砂防造林法の体系化とその業績 前酒田営林署長 富樫兼治郎</p>
--	--	---	--

<p>第5回受賞者 (昭和30年度)</p> <p>「拡声器」「室内音響」「騒音防止」に関する研究と指導 東北大学工学部教授 二村 忠元</p> <p>日本語の実験音響学的研究とその成果 東北大学名誉教授 土居 光知</p> <p>多年にわたり俳句を指導し 地方俳壇に寄与 俳 人 阿部みどり女</p> <p>リンゴの栽培を改良指導し 東北果樹産業界に寄与 青森県りんご協会理事 渋川伝次郎</p> <p>山間辺地に「独立学園」を創立 名利を離れて青年の育成に奉仕 キリスト教独立 高等学園校長 鈴木 彌美</p>	<p>第6回受賞者 (昭和31年度)</p> <p>東北地方の古代文化に関する考古学的研究 東北大学教授 伊東 信雄</p> <p>「日本化学総覧」を編集発行し 科学産業に寄与 財団法人 日本化学研究会 東北重量業界の発展に対する寄与 福島県重量協会会長 額賀 誠 医師</p> <p>広葉樹人絹バルブの工業化により、東北の未利用資源活用の道をひらく 東北バルブ 取締役副社長 片山 知又</p> <p>育児院の模範的経営と社会福祉事業に貢献 仙台キリスト教 育児院長 大坂 鷹司</p> <p>婦人の地位向上と社会改善に寄与 山形県婦人連盟 60余年にわたり東北の農事改良指導に尽力 国分農生主 国分 謙吉</p>	<p>第7回受賞者 (昭和32年度)</p> <p>鉄鋼資源の国内自給度を高め 東北鉱山業界の発展に寄与 日鉄鉱業若鉱業所長 今井 史郎</p> <p>東北ラグビー界の発展に寄与 秋田ラグビー協会顧問 鎌田 徳治</p> <p>超音波応用の研究、とくに魚群探知機の成功と実用化 東北大学教授 菊池 喜允</p> <p>水稲優良品種「サシグレ」を育成普及し食糧増産に寄与 宮城県立農業試験場古川分場 永年気温、水溫、流量の監察を記録し、冷地地農業対策に寄与 長井市在住 渋谷 洪衛</p>
<p>第8回受賞者 (昭和33年度)</p> <p>辺地教育に新しい指針を与え 地域産業の振興に貢献 西川町立大井沢自然博物館 東北農山漁村生活の調査研究と「東北研究書庫」建設による業績 会津農林専門学校教諭 山口弥一郎</p> <p>多年にわたり南部杜氏を育成し 東北酒造界の発展に寄与 南部杜氏協会会長 藤村 徳三</p> <p>東北地方のクル病予防と母子衛生 生育児知識の普及指導に献身 東北大学教授医学博士 佐野 保</p> <p>「平頭モリ先」を發明・製作し 日本捕鯨業の躍進に寄与 東京大学教授理学博士 平田 森三 株式会社石巻製作所 専務取締役 仁科 利英</p>		

第9回受賞者

(昭和34年度)

カキ種苗の人工飼育とその産業への応用

東北大学教授
理学博士 今井 丈夫

古印・金石字並びに郷土史料の保存刊行

盛岡市編集委員 太田孝太郎

民謡の価値を高く評価し、その復活、伝承、普及に尽くす

民謡普及
桃水会長 後藤 桃水

竿灯の伝統を生かし、妙技を發揮して観光東北の名を高む

秋田市竿灯会

永年歌道に精進、歌壇の隆盛に寄与

歌人 結城哀草果

第10回受賞者

(昭和35年度)

農業経営の具体的指導と農的人材の育成に尽くす

宮城県立農学寮 酒井 馨

わが国初の海底油田を發掘、東北鉱業界に新風を呼ぶ

石油資源開発株式会社
秋 田 鉱 業 所

社会の法知識普及及啓発と無料法律相談所など社会福祉事業に貢献

東北大学教授 中川善之助

郷土史の研究とその指導普及に尽くす

郷土家 三原 良吉

画期的な電気通信機器を製作し、通信事業界並びに東北の産業界に貢献

谷村株式会社新興製作所

第11回受賞者

(昭和36年度)

由緒ある所蔵品を開放し地方の文化向上と社会教育振興に貢献

本 間 美 術 館

ガラス長繊維についての新技術を確立し、繊維工業の伸長に貢献

日東紡績株式会社前福島工場長
兼 磯 織 研 究 所 長 富田 兼康

害虫学の体系を確立し実地指導により蚊・ハエ撲滅など環境衛生に尽力

東北大学教授 加藤陸奥雄

独特の版画芸術により素朴な郷土風俗を内外に紹介

創作版画家 勝平 得之

粘土礦物によるジークライト工業を成功させ東北の地下資源開発に寄与

ジークライト化学
工業株式会社社長 吉岡寛太郎

卓越した探鉱技術により大鉱床を発見し東北地方の鉱業振興に寄与

同和鉱業株式会社 小坂鉱業所

全国的な名剣道大会で優秀な成績をあげ東北地方の体育を振興

宮城県小牛田農林高校剣道部
名子制度の研究など東北地方の社会経済史を確立
岩手大学教授 森 嘉兵衛

第12回受賞者

(昭和37年度)

金属分析化学の研究と指導にあたり東北金属工業界に寄与

東北大学教授 後藤 秀弘

テレビジョン共同受信の研究など東北の通信文化の向上に尽力

東北大学教授 佐藤利三郎

東北地方の産業経済史関係古文書史料を發掘、日本経済史学界に貢献

福島大学助教授 庄司吉之助

河北美術展及び日本美術院展を通じ東北画壇の興隆に尽くす

日本画家 莊 司 福

古代正藍冷染法の継承とその保存に献身

染色工芸家 千葉あやの
重要無形文化財

柔道世界選手権、全日本選手権を獲得、東北柔道界の向上に貢献

秋田県警部補 夏井 昇吉
柔道7段

第13回受賞者

(昭和38年度)

フエンスンク全国大会に優勝し
東北女子体育界に寄与
宮城県が浦高等学校生徒会
体育部フエンスンク班
モニア病防除体系を確立し
リンゴ産業界に貢献
青森県りんご試験場長 木村 甚彌
平家琵琶を伝承してその保存に
貢献
平家琵琶研究者 館山 甲午
本宮方式映画教室運動の実践に
より地域文化向上に寄与
福島県本宮町立 本宮小学校
結晶方位の光学的決定法の完成
と結晶定法位切断法の開発
東北大学金属材
料研究所 教授 山本美喜雄
助 教授 渡辺 慈朗
講 師 佐々木栄一
仙台工機株
式会社社長 伊藤 定雄

第14回受賞者

(昭和39年度)

秋田県農村の医療保健問題を
調査研究しその解決に尽力
秋田県農村医学会
サンマの漁況予測方法を確立し
東北水産業界に貢献
東北区水産研究所
資源第一研究室長 堀田 秀之
美術評論家として郷土の民俗芸能
を発掘し地方文化の育成に寄与
美術評論家 森口 多里
仙台白菜など新品種の育成普及
に貢献
渡辺採種場社長 渡辺 頼二
体操選手として長く活躍、東京
オリンピックの団体優勝に寄与
東洋レーヨン 小野 喬

第15回受賞者

(昭和40年度)

体操選手として活躍、東京オ
リンピックで個人総合優勝
日本大学講師 遠藤 幸雄
重量挙げで次々に世界記録を更
新、東京オリンピックで優勝
自衛隊体育学校 三宅 義信
三等 陸曹
東京オリンピックのマラソン、
1万m競走に入賞、東北人の精
神力を発揮
自衛隊体育学校
三等 陸曹 円谷 幸吉
全日本柔道選手権に3度優勝、
東京オリンピックでも銀メダル
を獲得
富士製鉄 神永 昭夫
重量挙げ選手として活躍、東京
オリンピックで銅メダルを獲得
法政大学生 一ノ関史郎
重量挙げ選手として活躍、東京
オリンピックで銅メダルを獲得
法政大学生 大内 仁
民俗学を研究し東北の民間信仰
史料を集大成
福島県立相馬女子
高等学校教頭 岩崎 敏夫
地層の研究により油田など鉱産
資源の開発探査に貢献
秋田大学 藤岡 一男
鉱山学部教授
酸性河水による工作物腐食を究
明し産学協同でその対策を確立
東北大学金属
材料研究所教授 下平 三郎
東北電力株式会社
常務取締役 若林 疆
東北剣道界の普及振興に献身
東北剣道連盟顧問 乳井 義雄
行政事務の合理化を實踐し「米
沢方式」として全国に範を示す
米沢市長 吉池慶太郎

<p>地下工学を体系づけ、温泉開発に応用</p> <p>弘前大学教育学部教授 酒井軍治郎</p> <p>新農業を発明し、水銀毒の排除に成功</p> <p>東北共同化学工業株式会社 副社長 百足 泰守</p> <p>集団検診によるガン征圧体制の確立に尽力</p> <p>宮城県対がん協会</p> <p>多年レスリング界を指導、育成</p> <p>日本アマチュア・レスリング協会 参事 笹原 正三</p> <p>女子バドミントンで初の世界制覇</p> <p>帝国石油株式会社 秋田鉱業所 横山 満子</p>	<p>第16回受賞者</p> <p>(昭和41年度)</p>
<p>緯度観測所の発展および東北の農業気象観測に貢献</p> <p>水沢市名誉市民 池田 徹郎</p> <p>石川啄木を調査研究して広く世に紹介</p> <p>岩手芸術協会 会長 吉田 孤羊</p> <p>東北地方に根ざした作曲および合唱音楽に寄与</p> <p>宮城教育大学 教授 福井 文彦</p> <p>考古学資料を発掘、保存し地方文化に寄与</p> <p>毛利考古館 館長 毛利総七郎</p> <p>身体不自由児療育の研究実践に尽力</p> <p>宮城県更生育成医療整形外科 指定 医 協 議 会</p>	<p>第17回受賞者</p> <p>(昭和42年度)</p>
<p>八郎湯の干拓と社会変動を究明し、学会に寄与</p> <p>秋田大学八郎湯研究委員会</p> <p>深層地下構造を研究し、東北開発に貢献</p> <p>東北大学教養部教授 奥津 春生</p> <p>地域の音楽水準を高揚し、全日本合唱コンクール一般の部で優勝</p> <p>FMC混声合唱団</p> <p>東北ラグビー界に貢献し、国体で2年連続優勝</p> <p>富士製鉄釜石製鉄所ラグビー部</p> <p>重量挙げ選手としてメキシコオリンピックで第3位</p> <p>三宅 義行</p>	<p>第18回受賞者</p> <p>(昭和43年度)</p>
<p>集団検診方法の体系化による子宮がん防止に寄与</p> <p>東北大学医学部教授 九嶋 勝司 同 講師 野田起一郎</p> <p>北上川洪水予報体系の確立とダム群統合管理の実践</p> <p>東北地方建設局岩手工事事務所</p> <p>全国高校ラグビー大会で13回優勝</p> <p>秋田県立秋田工業高等学校 ラグビー部</p> <p>世界女子バドミントン選手権大会で連続優勝に貢献</p> <p>バドミントン選手 高橋とも子</p> <p>生涯を社会福祉事業に捧げ施設を経営した功績</p> <p>弘前愛成園理事長 佐々木寅治郎</p>	<p>第19回受賞者</p> <p>(昭和44年度)</p>

第20回受賞者

(昭和45年度)

鉱物資源、とくに黒鉱・砂鉄などの処理技術の開発

東北大学選鉱製錬研究所教授 和田 正美

菅江真澄の業績を中心とする東北庶民文化の研究

民俗学者 内田 武志

わが国初の松川地熱発電の開発

日本重化学工業松川地熱発電所代表 富岡 重憲

全国学校音楽合唱部門に優勝5回の偉業

仙台市立五橋中学校

世界卓球選手権大会で優勝

中京大学助手 小和田敏子

多年にわたる郷土の観光産業開発に献身

宮城県河南町旭山観光協会会長 斎藤壯次郎

第21回受賞者

(昭和46年度)

東北の無形文化財の研究とその保存に寄与

早稲田大学教授 本田 安次

郷土の民俗資料を収集しその保存に貢献

致道博物館

黒川能の伝統継承に尽力

黒川 能 座

画道60年郷土画壇の発展に寄与

画家 菅野 廉

採苗・養殖技術の開発によりホタテ貝の栽培漁業を確立

青森県水産増殖センター

東北の自転車競技発展向上に尽力

宮城県アマチュア自転車競技連盟理事長 猪股 一二

第22回受賞者

(昭和47年度)

温泉医学の基本的研究と臨床的技術の開発

東北大学教授 杉山 尚

和算研究の資料発見、保存に貢献

理学博士 平山 諦

胃集団検診用間接狙撃撮影装置を完成した功績

西山胃腸科院長 西山 正治

黒森歌舞伎の伝統継承に尽力

黒森 歌舞伎

救急医療体制の確立とその積極的活動

仙台市立病院

レスリング選手としてミュンヘン・オリンピックで金メダルを獲得

レスリング選手 柳田 英明

ミュンヘン・オリンピックで男子バレーボール金メダル獲得に貢献

バレーボール選手 佐藤 哲夫

ミュンヘン・オリンピックで女子バレーボール銀メダル獲得に貢献

バレーボール選手 鳥影せい子

第23回受賞者

(昭和48年度)

アイバンク設立の基礎を築き世界的水準の角膜移植術を確立

岩手医科大学教授 今泉 亀撤

東北海区の魚類生態系を究明し栽培漁業を開発

東北大学農学部教授 畑中 正吉

全国学校音楽コンクールで連続5回の優勝

山形県立山形西高等学校合唱団

全日本剣道選手権大会で3度天皇杯を獲得

剣道7段 千葉 仁

十和田科学博物館の設立など広域観光開発と地方文化の向上に尽力

十和田開発株式会社 杉本 行雄

第24回受賞者

(昭和49年度)

肺ガンの早期発見と外科的療法の体系化

東北大学名誉教授 鈴木十賀志

延年の舞の伝統を継承

毛 越 寺

東北の歴史的な重要建造物修復に貢献

文化財建造物保存技術協会修理技師 藤島清太郎

リンゴ優良品種「ふじ」の育成

農林省果樹試験場盛岡支場
リンゴふじ育成グループ

地域の社会福祉事業に献身

社会福祉法人 藤野学園理事長 渡辺 セツ

第25回受賞者

(昭和50年度)

キノコ類の成分解明など薬用植物学の開拓

東北大学薬学部部長 竹本 常松

多年洋画家として活躍、郷土美術界に寄与

洋画家 橋本八百一

白石紙の古漉法を継承

白石和紙工房 遠藤 忠雄

生産と生活の調和を図る地域農業計画の実践

岩手県住田町
農業総合指導協議会

水稻良品品種「トヨニシキ」「キヨニシキ」の育成

農林省東北農業試験場
栽培第一部育成グループ

第26回受賞者

(昭和51年度)

東北の植物群集の研究と自然保護に貢献

東北学院大学教授 吉岡 邦二

日本画家として郷土画壇に寄与
永年にわたり書道界の発展に尽力

書家 有井 凌雲
医 師 澤井 七郎

半生を辺地の診療に献身
高校バスケットボールで2年連続三冠王

秋田県立能代工業高等学校
バスケットボールチーム

モントリオール・オリンピック女子バレーボールで金メダルを獲得
バレーボール選手 荒木田裕子

モントリオール・オリンピック柔道で銅メダルを獲得
柔道選手 遠藤 純男

モントリオール・オリンピックレスリングで銅メダルを獲得
レスリング選手 菅原弥二郎

モントリオール・オリンピックレスリングで銅メダルを獲得
レスリング選手 工藤 章

第27回受賞者

(昭和52年度)

新非強磁性インバー合金を開発

東北大学名誉教授 斎藤 英夫

東北の地域開発と農業経済に貢献

東北大学名誉教授 木下 彰

仙台提焼の伝統を継承

陶芸家 針生 嘉孝

地方演劇の振興に尽力

演劇評論家 大山 功

世界卓球選手権大会で優勝

青森県教育委員会理事 河野 満

<p>実践的地理学の研究で地域開発に貢献</p> <p>東北学院大学教授 宮川 善造</p> <p>東北における仏教文化史の研究</p> <p>岩手県文化財保護委員会 司東 真雄</p> <p>東北の音楽文化向上に寄与</p> <p>山形交響楽団</p> <p>日本刀鍛錬技術の伝統を継承</p> <p>刀 匠 法華三郎信房</p> <p>全国高校スキー大会で初の3連覇</p> <p>東奥義塾高等学校スキー部</p>	<p>第28回受賞者</p> <p>(昭和53年度)</p>	<p>文化財保護と郷土史研究に尽力</p> <p>仙台美術館館長 佐々 久</p> <p>短歌の創作指導と研究にあげた功績</p> <p>東北福祉大学教授 扇畑 忠雄</p> <p>永年の創作活動で郷土画壇に寄与</p> <p>洋画家 渋谷榮太郎</p> <p>地域文化の向上と児童文化の振興に貢献</p> <p>児童文学者 須藤 克三</p> <p>こけし作り一筋に業界発展に尽くす</p> <p>こけし工人 佐藤 丑蔵</p> <p>志和型複合経営の確立で地域農業を振興</p> <p>岩手県志和農業協同組合</p>	<p>第29回受賞者</p> <p>(昭和54年度)</p>
<p>東北地方の鉱物学研究にあげた業績</p> <p>東北大学連鉱製錬研究所教授 南部 松夫</p> <p>雪と雪崩の研究に尽力</p> <p>和賀岳を愛する会 会長 高橋 喜平</p> <p>豪雪地帯の林業技術に関する研究</p> <p>山形大学農学部 北村昌美教授研究グループ</p> <p>俳句などの芸術文化活動で地方文化の向上に寄与</p> <p>宮城県芸術協会理事長 永野 孫柳</p> <p>全日本学生選手権競漕大会で3連覇達成</p> <p>東北大学漕艇部</p>	<p>第30回受賞者</p> <p>(昭和55年度)</p>	<p>脳卒中外科療法の開発と東北での撲滅運動の推進</p> <p>東北大学医学部教授 鈴木 二郎</p> <p>東北の古代史研究にあげた功績</p> <p>岩手大学名誉教授 板橋 源</p> <p>児童文化の育成と郷土史研究に貢献</p> <p>おてんとさんの会 会長 天江 富弥</p> <p>国体ホッケー少年女子の部で4連覇</p> <p>岩手県立沼宮内高等学校 女子ホッケー部</p> <p>ボランティア精神に徹した地域の福祉村活動</p> <p>上山市中川福祉村</p>	<p>第31回受賞者</p> <p>(昭和56年度)</p>

第32回受賞者

(昭和57年度)

自然災害の対策を研究し、東北開発の基盤整備に貢献

東北大学工学部教授 岩崎 敏夫

詩作を通じて東北文化の向上に寄与

詩人 真壁 仁

ラグビー日本選手権で4連勝

新日本製鉄釜石製鉄所
ラグビー部

全国中学校軟式野球大会で優勝

秋田市立城東中学校野球部

出版事業を通じて郷土の文化向上に尽力

宝文堂社長 鈴木 武夫

第33回受賞者

(昭和58年度)

東北地方農山漁村の実態調査に挙げた功績

東北大学農学部長 竹内 利美

重症肝疾患の病態解析と治療の推進

岩手医科大学教授 海藤 勇

洋画家として東北画壇の育成に尽力

洋画家 杉村 惇

全日本合唱コンクールで4年連続金賞

福島県立安積女子高等学校合唱団

独自の保健医療体制で、保健の村づくり

岩手県和賀郡沢内村
村長 太田 祖電

第34回受賞者

(昭和59年度)

東北史の研究と普及に貢献

東北大学教授 高橋 富雄

日本海中部地震の学際研究と提言

弘前大学日本海中部地震研究会
会長 宮地 房江

染色工芸を通じて地域文化向上に寄与

仙台染織美術協会
会長 村田 柴太

新しい町おこし活動とその成果

岩手県大迫町長

国体自転車競技総合で5連覇

国体福島県自転車チーム
副手 齋藤 仁

ロサンゼルス・オリンピック柔道(95キロ超級)で金メダル

早稲田大学助手 太田 章

ロサンゼルス・オリンピックレスリング(フリースタイル90キロ級)で銀メダル

早稲田大学助手 太田 章

ロサンゼルス・オリンピックレスリング(フリースタイル62キロ級)で銀メダル

早稲田大学助手 太田 章

ロサンゼルス・オリンピック自転車(スプリント)で銅メダル

早稲田大学助手 太田 章

ロサンゼルス・オリンピック女子バレーボールで銅メダル

早稲田大学助手 太田 章

ロサンゼルス・オリンピック女子バレーボールで銅メダル

早稲田大学助手 太田 章

ロサンゼルス・オリンピック女子バレーボールで銅メダル

早稲田大学助手 太田 章

ロサンゼルス・オリンピック女子バレーボールで銅メダル

早稲田大学助手 太田 章

第35回受賞者

(昭和60年度)

旧石器文化を中心に考古学
研究で挙げた功績

東北福祉大学教授 芹澤 長介

東北の精神性を表現する
多彩な芸術活動

造形家 岩間 正男

世界柔道選手権大会78キ以下
級で2回連続優勝

岩手県警察本部
巡査部長 日蔭 暢年

全国高校総体で4連勝、全国
選抜高校で5連勝

光星学院高等学校レスリング部

半導体および光通信の研究・
開発で産業界に貢献

東北大学電気通信研究所長
①半導体研究所長 西澤 潤一

第36回受賞者

(昭和61年度)

糖尿病の病態解析と地域医療への貢献

東北大学医学部教授 後藤 由夫

形状記憶合金の基礎および応用研究における功績

東北大学産銀製錬研究所長 本間 敏夫

東北書道界の発展向上に寄与

書道芸術院名誉会長 加藤 翠柳

国体陸上競技100メートル少年の部で3年連続優勝

福島県立会津高等学校3年 五十嵐幸一

ギンザケ養殖の技術確立による複合型養殖業の推進

宮城県志津川町漁業協同組合

一世紀にわたるキリスト教主義教育で人材を育成、社会の発展に寄与

学校法人 東北学院

一世紀にわたるキリスト教主義教育で人間性豊かな女子の育成に寄与

学校法人 宮城学院

第37回受賞者

(昭和62年度)

民間研究者として農業史の研究に尽力

東北農技術史調査所長 加藤 治郎

乳がん集団検診体系の確立と推進

東北大学医学部教授 佐藤 寿雄

手づくりの舞台創作活動による地域づくり運動

遠野物語ファンタジー製作委員会

重要無形民俗文化財相馬野馬追の伝承に尽力

相馬野馬追保存会

水稲品種「ササニシキ」の育成と普及指導

元宮城県農業センター長 末永 喜三

第38回受賞者

(昭和63年度)

伊豆沼・内沼の自然環境保全に尽力

伊豆沼管理協議会

道路粉じん健康影響調査における功績

東北大学医学部教授 瀧島 任

東北の風土に根差した版画を国内外で発表

版画家 斎藤 清

全国音楽コンクール中学校の部で3年連続5回目の優勝

八戸市立根城中学校合唱部

新技術開発で東北の産業振興に貢献

東北電子産業社員 佐伯 昭雄

ソウル・オリンピックのレスリング(フリースタイル52kg級)で優勝

日本体育大学助手 佐藤 満

第39回受賞者

(平成元年度)

磁気記録の高密度化の研究における功績

東北工業大学学長 岩崎 俊一

古代東北史の研究、解明で上げた業績

秋田大学教授 新野 直吉

多年にわたり東北の俳壇隆盛に寄与

俳人 佐藤 鬼房

木工芸の里づくりによる山村の振興

宮城県津山町長 佐々木 一郎

心身障害児者の福祉向上に貢献

仙台市精神薄弱児者育成会理事長 安彦ひさ子

第40回受賞者

(平成2年度)

高度情報ネットワークの研究と
推進に貢献

東北大学教授 野口 正一

胃癌死亡率の地域差と食生活要
因の解明に功績

秋田大学教授 加美山茂利

松枝岐歌舞伎の保存、伝承に
おける功績

松枝岐歌舞伎・千葉之家花駒座

東北柔道界の発展に寄与

東北柔道連盟会長 佐藤儀一郎

長年にわたる肢体不自由児の療
育事業推進に寄与

宮城県肢体不自由児
協会会長 高橋 孝文

第41回受賞者

(平成3年度)

アモルファス金属の研究と科学
技術への貢献

東北大学教授 増本 健

彫刻芸術と地方文化の振興に
寄与した功績

彫刻家 佐藤 忠良

大学野球日本一で東北スポー
ツ界に希望を与えた功績

東北福祉大学硬式野球部

全国高等学校ボクシング競技に
おいて3冠を達成

岩手県水沢農業高校3年 八重樫 剛

水稲良食味品種「あきたこまち」
の育成

秋田県農業試験場

「あきたこまち」育成グループ

要保護児童の養護活動における貢献

社会福祉法人 最上 梅 檀 会

第42回受賞者

(平成4年度)

光エレクトロニクス新分野の
研究開発における功績

東北大学名誉教授
東北工業大学教授 稲場 文男

新生児未熟児の集中管理を中心
とした周産期医療への貢献

仙台赤十字病院周産期センター
新生児未熟児集中治療部門

登米能の伝承・保存を図り地域
文化の向上、振興に貢献

登米 謡 曲 会

農業中毒の防止など健康な農家
生活の確立に貢献

青森県農科医学会長 渡部 忍

民間ボランティアによる多年に
わたる電話相談活動の功績

社会福祉法人 仙台いのちの電話

アルペールビル・オリンピック
のフルデイック複合団体が優勝

リクルート・スキータム 三ヶ田礼一

第43回受賞者

(平成5年度)

マグネティックスの新分野の研究
開発と応用における功績

東北大学名誉教授
八戸工業大学学長 村上 孝一

セントアイプロセス(強靱鑄鉄製
造法)による東北産業界への貢献

東北大学名誉教授 本間 正雄

慶長遣欧使節船「サン・ファン・パウ
テイスタ号」の復元船建造に貢献

村上造船所棟梁 村上定一郎

第4回世界陸上選手権女子マラ
ソンで日本人初の優勝

陸上選手 浅利 純子

全国高校駅伝で初の男女同時優勝

仙台育英学園高校陸上競技部

一世紀にわたるキリスト教主義教育
で人間性豊かな女子の育成に寄与

学校法人 尚 綱 女 学 院
学校法人 仙台白百合学園

<p>トネル内通信法の発明と実用化に貢献</p> <p>東北大学教授 千葉 二郎</p> <p>多年にわたり東北書道界の発展、向上に寄与</p> <p>書家 田村 桃溪</p> <p>国宝・重文など仏像彫刻の保存、修理における功績</p> <p>財団法人美術院 国宝修理所長 小野寺久幸</p> <p>東北剣道界の発展、向上に寄与</p> <p>宮城県剣道連盟 副会長兼理事長 堀籠 敬蔵</p> <p>第72回日本ノルディックススキー選手権で4冠を達成</p> <p>山形県総合運動都市公園公社 体育主事 青木富美子</p> <p>一世紀にわたる個性尊重教育で、有為な人材の育成に寄与</p> <p>学校法人 南光学園東北高等学校</p>	<p>第44回受賞者</p> <p>(平成6年度)</p>
<p>未開の金属材料「金属間化合物」を実用化に貢献</p> <p>東北大学名誉教授 和泉 修</p> <p>大腸がん集団検診方法の確立に寄与</p> <p>弘前大学教授 吉田 豊</p> <p>同 講師 齋藤 博</p> <p>民間人として郷土史研究に尽くした功績</p> <p>郷土史家 紫桃 正隆</p> <p>東北の芸術文化振興に尽力し、後進の育成に貢献</p> <p>仙台市民ギャラリー理事長 宮城 正俊</p> <p>カヌーの町づくりに取り組み、国体2連覇を達成</p> <p>福島県カヌー協会 難病患者に光をともし20年</p> <p>社会福祉法人 ありのまま舎</p>	<p>第45回受賞者</p> <p>(平成7年度)</p>
<p>国語学研究ならびに東北の国語教育における功績</p> <p>東北大学名誉教授 佐藤喜代治</p> <p>新生児呼吸窮迫症候群の療法を開発した功績</p> <p>岩手医科大学教授 藤原 哲郎</p> <p>金工作家として伝統工芸の継承と発展に寄与</p> <p>人間国宝 高橋 敬典</p> <p>創造花火の開発と国際交流における功績</p> <p>全国花火競技大会 「大曲の花火」実行委員会</p> <p>腹腔鏡の臨床応用ならびに地域医療への貢献</p> <p>本荘第一病院院長 小松 寛治</p>	<p>第46回受賞者</p> <p>(平成8年度)</p>
<p>音の知覚と地域音環境改善の研究における功績</p> <p>東北大学教授 曾根 敏夫</p> <p>日本画家として東北画壇の発展と後進の育成に尽力</p> <p>日本画家 能島 康明</p> <p>世界初の北極海単独歩行横断を成し遂げた功績</p> <p>冒険家 大場 満郎</p> <p>耐震ガラスなど新製品開発と観光による地域活性化に貢献</p> <p>佐原硝子社長 佐原 得司</p> <p>洋上救急医療体制の確立に貢献</p> <p>仙塩総合病院理事長 鈴木 寛</p>	<p>第47回受賞者</p> <p>(平成9年度)</p>

第48回受賞者

(平成10年度)

電子的神経・筋系制御システムの開発とその臨床応用における功績

東北大学教授 星宮 望

同 井口 泰孝

同 半田 康延

難治性肝疾患並びに肝癌の病態解析と治療の推進に対する功績

岩手医科大学教授 佐藤 俊一

多年にわたり東北川柳界の発展向上に寄与

川柳作家 菅原 一字

空手世界選手権優勝、アジア大会2連覇、国体6連覇、全日本選手権7連覇を達成

空手選手 阿部 良樹

実学教育により120年にわたって人材育成、社会の発展に寄与

学校法人 朴沢学園

第49回受賞者

(平成11年度)

近世武士住宅に関する一連の研究および仙台城復元計画案策定

東北大学登録教授 佐藤 巧

東北地方における音楽文化の振興・発展への貢献

(財)仙台フィルハーモニー管弦楽団

全国高校選抜大会、インターハイ、国体で高校バレー3冠を達成

古川商業高校女子バレーボール部

インターハイ卓球男子団体3連覇を含む全国大会8連続優勝

青森山田高校卓球部男子

葉いもち初発生時期の予察システムを確立し、稲の安定生産技術の開発に貢献

東北いもち病発生予察研究グループ

第50回受賞者

(平成12年度)

肺移植システムの確立など、一連の呼吸器外科療法開発の功績

東北厚生年金病院院長 藤村 重文

多年にわたり郷土画壇の発展と芸術文化の振興に寄与

洋画家 成瀬 忠孝行

明治の芝居小屋を活用した幅広い芸術文化活動への貢献

秋田県小坂町 康 楽 館

シドニーオリンピック・ソフトボール競技で銀メダル

日立ソフトウェア社員 斎藤 春香

強耐冷性・良食味水稲「ひとめぼれ」の育成

佐々木武彦ほか、ひとめぼれ育成グループ

一世紀にわたり生活に密着した教育と人材の育成に寄与

学校法人 三島学園

第51回受賞者

(平成13年度)

多賀城跡等の発掘調査を通して東北古代史の解明に尽くした功績

宮城県多賀城跡調査研究所

岩手県大迫町での高血圧疫学研究と地域医療貢献

大迫研究グループ

多年にわたり東北日本画界の発展向上に寄与

日本画家 畑井美枝子

東北の伝統芸能を素材にした半世紀にわたる舞台創造の功績

秋田県田沢湖町 劇団わらび座

多年にわたり地域医療に貢献

大泉記念病院院長 高橋 孝

第52回受賞者

(平成14年度)

光導波技術の革新

東北学名譽教授・
東北学未来科学技術共同研究センター客員教授
川上彰二郎

粒状体力学の研究とその応用の発展
に関する功績

東北学名譽教授 佐武 正雄

俳句を通じ地域文化の向上に寄与

須賀川市 桔樺吟社

「茂重波」系統種雄牛の造成事業推進
により肉用牛産業の活性化を実現

種雄牛造成推進グループ
(代表者) 山岸敏宏(東北学名譽教授)

アテルイ、モレの顕彰活動で地域振
興に貢献

胆江地域顕彰グループ
(代表者) 後藤農水沢市長

第53回受賞者

(平成15年度)

中世東北史の研究と普及に貢献

福属学名譽教授 小林 清治

多年にわたり東北文芸界の発展向上
に寄与

歌人 扇畑 利枝

産学官連携により東北地域における
産業振興・発展に貢献

前東北インテリジェントエヌ機構推進協議会会長
石田名香雄

百寿を超えてなお経済人として活躍
し、地域経済の発展に寄与

仙台商工会議所顧問 今泉 清

自然環境保護活動と環境教育に対す
る功績

牡蠣の森を築つ会代表 畠山 重篤

第54回受賞者

(平成16年度)

がんに対する生体の防御機構の発見
とその後の免疫学研究における功績

山形大学学長 仙道富士郎

ドキュメンタリー映画の普及振興に功績
山形国際ドキュメンタリー映画祭実行委員会
微細加工技術による地域産業等への貢献

東北学未来科学技術共同研究センター教授
江刺 正喜

河川軸連携による県境を越えた
地域づくりに寄与

北上川流域市町村連携協議会
ドルトムント大会で優勝

プリンセスホテル 荒川 静香

世界フィギュアスケート選手権
ドルトムント大会で優勝

プリンセスホテル 荒川 静香

アテネオリンピックピックレスリング
女子63キロ級で優勝

中京女子大学 2年 伊調 馨

アテネオリンピックピックレスリング 女
子48キロ級で準優勝

中京女子大学 3年 伊調 千春

アテネオリンピックピック柔道
男子90キロ級で準優勝

明治大学 4年 泉 浩

アテネオリンピック水泳競技で
2種目に3位入賞

日本大学 2年 森田 智巳

第55回受賞者

(平成17年度)

津波総合防災の先駆的展開と貢献

日本大学大学院総合科学研究科教授
東北学名譽教授
首藤 伸夫

全日本合唱コンクールで
3年連続日本一

郡山市郡山第二中学校合唱部

全国大学対抗戦で男女合わせて
20回優勝

東北福祉大学体育会ゴルフ部

冬の光の祭典を企画・運営し、
地域へ貢献

SENDAI光のページェント実行委員会

一世紀にわたる個性尊重教育で、
有為な人材の育成に寄与

学校法人 仙台育英学園

第56回受賞者

(平成18年度)

赤外レーザー医療装置の根幹技術の先駆的研究とその開発・実用化

東北大学名誉教授・
仙台電機工業専門学校校長

宮城 光信

第77回都市対抗野球大会で初優勝、東北勢初の快挙

TDK硬式野球部

「あ・ら・伊達な道の駅」を経営し、地域住民にやりがいと活力を与えた功績

株式会社 池月道の駅

30年にわたり、仙台圏の地域医療支援に貢献

財団法人
仙台市医療センター仙台オープン病院

第57回受賞者

(平成19年度)

単結晶材料の研究開発で東北の企業を育成した功績

東北大学多元物質科学
研究所名誉教授

福田 承生

東北学の構築と実践による東北文化への功績

東北芸術工科大学院長

赤坂 憲雄

多年にわたり重度身体障害者の就労と社会復帰に貢献

錦戸洋服店代表取締役社長 錦戸光一郎

巨大ねぶたを復元し、東北の夏祭り
に育て上げた功績

五所川原立佞武多運営委員会

第58回受賞者

(平成20年度)

バイオ技術に新しい道をひらく糖鎖工学の研究

弘前大学学長

遠藤 正彦

多年にわたり工芸界の発展と芸術文化の向上に寄与

陶芸家・宮城県芸術協会顧問

高倉 健

多年にわたり地域医療に貢献

医師・石巻市常備診療所所長

富永 忠弘

写真文化の普及発展に尽くした功績

財団法人 土門拳記念館

第59回受賞者

(平成21年度)

液晶の基礎研究および高性能液晶ディスプレイの開発

東北大学大学院
工学研究科教授

内田 龍男

日本刀の制作を通じた日本人の心と文化の伝承

刀工 上林 恒平

もち性ヒエの開発とその利用による地域振興

岩手大学農学部附属余ウイールドサイエンス教育研究センター教授

星野 次注

「最上川やまがた雛の道」を提唱し、春の観光を大きく発展させた功績

おひな様研究家 安部 英子

第60回受賞者

(平成22年度)

資源の安定確保へ 秋田大学の挑戦
秋田大学学長 吉村 昇
多年にわたり陶芸界の発展と芸術文化の向上に寄与
陶芸家 針生 乾馬

バンクーバー冬季五輪 スピードスケート男子500メートル銅メダル
日本電産シキョー 加藤 条治

光エレクトロニクス半導体材料・素子・プロセスに関する研究
東北大学学際科学国際高等研究センター客員教授 八百 隆文

将棋を通して伝統文化の普及と向上に寄与するとともに社会貢献に尽力
ナカト代表取締役 中戸 俊洋

誰もが参加でき、気軽に楽しめる無料の市民音楽祭の定着を通じた地域活性化
定禪寺トリートメントフェスティバル実行委員会

第61回受賞者

(平成23年度)

家畜卵巣卵の高度利用技術の開発
東北大学大学院農学研究科教授 佐藤 英明
全国俳句山寺大会を半世紀にわたって開催した功績
山寺文化保存会

東北の地域づくり活動を先導し地域振興に貢献
民俗研究家・地域づくりプロデューサー 結城登美雄

地域伝統の食文化に学び、食育推進を実践した功績
学校入社登壇感導学調理科インキョウチン

第62回受賞者

(平成24年度)

大脳の前頭野を活性化させる学習療法を開発、脳機能向上と認知症ケアに貢献した功績
東北大学加齢学研究所教授 川島 隆太
多年にわたり音楽界の発展と芸術文化の向上に寄与した功績
音楽家 片岡 良和
芸術を取り入れた稲作体験
「田んぼアート」で地域振興に貢献
青森県田舎館村むらおこし推進協議会

ロンドン五輪レスリング女子48キロ級で金メダル
自衛隊 小原日登美

ロンドン五輪アーチェリー男子個人で銀メダル
近畿大学職員 古川 高晴

ロンドン五輪卓球女子団体で銀メダル
ANA 福原 愛

ロンドン五輪卓球女子団体で銀メダル
ミキハウス 平野早矢香

ロンドン五輪フェンシング男子フルール団体で銀メダル
ネクサス 千田 健太

ロンドン五輪フェンシング男子フルール団体で銀メダル
ネクサス 淡路 卓

ロンドン五輪バレーボール女子で銅メダル
日立 江畑 幸子

ロンドン五輪バレーボール女子で銅メダル
JT 大友 愛

第63回受賞者

(平成25年度)

地域がん登録によりがん対策の向上に寄与した功績
宮城県新生物レジストリー委員会
多年にわたり東北日本画壇の発展向上に寄与した功績
日本画家 能島 和明

多年にわたり東北能楽界の発展向上に貢献
能楽師 喜多瀬謙分 佐々木宗生

日本車椅子バスケットボール選手権大会で5連覇
宮城MAX

高精度画像認識の研究とその応用展開ならびに情報技術を活用した震災犠牲者の身元確認における功績
東北大学大学院情報科学研究科教授 青木 孝文

第64回受賞者

(平成26年度)

合金などの材料組織制御の基礎研究と東北企業との共同開発・製品品化への功績

東北大学名誉教授 石田 清仁

エルビウム光ファイバー増幅器の先駆的研究開発とそれを用いた光通信技術の高度化

東北大学 電気通信研究所教授 中沢 正隆

多年にわたり宮城県の芸術界の発展と文化芸術の向上に寄与

公益社団法人宮城県芸術協会

庄内地域の伝統文化、芸術の保護・継承と地域産業振興への寄与

平田牧場取締役会長 新田 嘉一
東北公益文科大学理事

ソチ冬季五輪フィギュアスケート男子シングルで金メダル

全日本空輪 羽生 結弦

第65回受賞者

(平成27年度)

東北地方および世界のがん医学への貢献

山形大学医学部名誉 嘉山 孝正

40年にわたりオペラ文化の普及発展に貢献

一般社団法人仙台オペラ協会

多年にわたり美術界の発展と芸術文化の向上に寄与

彫製家 土屋 瑞穂

原発事故の避難区域で操業継続、高い技術力で復興を牽引

株式会社 菊池製作所

第66回受賞者

(平成28年度)

東北地方および世界の小児医療向上への貢献

宮城県立こども病院名誉院長 大井 龍司

多年にわたり漆工芸を通して東北の芸術文化の向上に寄与

漆芸家 香澤 則雄

全日本合唱コンクールで4年連続の混声・女声2冠

郡山市立郡山第五中学校合唱団

リオデジャネイロ五輪バドミントン女子ダブルスで金メダル

日本ユニシス 高橋 礼華
日本ユニシス 松友美佐紀

リオデジャネイロ五輪レスリング男子グレコローマンスタイル59^{kg}級で銀メダル

ALSO R 太田 忍

高校バスケット全国選抜優勝大会3年連続優勝

明成高等学校男子バスケットボール部

省エネに資する超低損失ナノ結晶磁性材料の発明とその工業化による東北の復興・新生への貢献
東北大学リーディング・プロジェクト
金属材料研究所教授 牧野 彰宏

第67回受賞者

(平成29年度)

東日本大震災からの復興支援と実践的防災学の創生

東北大学災害科学国際研究所

全日本合唱コンクール全国大会で3年連続の文部科学大臣賞

岩手県立不束方高等学校音楽部

赤外から青色までの半導体材料とその素子応用によるエレクトロニクスの発展への貢献

東北大学金属材料研究所教授 松岡 隆志

難病と闘う子どもとその家族を支援する活動により地域医療に貢献

認定特定非営利活動法人バンダハウスを育てる会

有機農業の展開を軸にした新しい田園文化社会づくりへの功績

農業 星 寛治

第68回受賞者

(平成30年度)

がん対策の発展と公衆衛生の向上に寄与した功績

公益財団法人 久道 茂
宮城県対がん協会会長

東北の研究施設として最先端の研究成果を上げ、地域産業の活性化に寄与

慶應義塾大学 富田 勝
先端生命科学研究所長

多年にわたり東北合唱界の発展向上に寄与

宮城県合唱連盟理事長 今井 邦男

膜材料「クレスト」の開発とその工業化による東北への貢献

国立機関学入薬技術総合研究所 化学プロセス研究部門首席研究員 蛭名 武雄

独自の地域産学官連携スタイルの構築と実践による地域産業への貢献

東北大学大学院 工学研究科教授 堀切川一男

第69回受賞者

(令和元年度)

東北への次世代放射線施設設置の実現および物質・材料の新しい評価法開発への貢献

東北大学 豊寛教授 早稻田嘉夫

PETによるがん診断法の開発と実用化およびヒト脳加齢の画像研究など脳科学の発展に対する貢献

東北医科大学 医学部 長 福田 寛

ブラックホールの輪郭撮影に初めて成功した国際チームに参加し、重要な役割を果たした業績

国立天文台水沢VLIB観測所

彫刻芸術分野における世界的業績および宮城県への貢献

彫刻家 豊家 武藤 順九

長年にわたる会津地域、福島県、東北の産業振興への貢献

会津大学産学イノベーションセンター

第70回受賞者

(令和2年度)

生体の酸化ストレス応答機構の解明

東北大学東北メディカル・メガバンク機構 機構長 山本 雅之

多年にわたり東北俳句界の発展向上に寄与

俳人 小熊摩主宰 高野ムツオ

東北から日本の絨毯の美しさを世界に広める

オリエンタルカーペット

産学官連携拠点の確立による東北地域産業への貢献

東北大学未来科学技術共同研究センター長 長谷川史彦

仙台の歴史・文化の継承・発展を目的に地域活性化に貢献

仙台・青葉まつり協賛会

	年度
本間 正雄	平5
堀籠 敬蔵	6
星宮 望	10
朴沢 学園	々
星野 次汪	21
星 寛治	29
堀切川一男	30

【ま】

真壁 仁	昭57
増本 健	平3
牧野 彰宏	28
松岡 隆志	29

【み】

宮城県立農業試験場古川分場	昭32
三原 良吉	35
宮城県小牛田農林高校剣道部	36
宮城県鼎が浦高等学校生徒会 体育部フェンシング班	38
三宅 義信	39
宮城県対がん協会	41
宮城県更生育成医療整形外科指定医協議会	42
三宅 義行	43
宮川 善造	53
宮地 房江	59
宮城県志津川漁業協同組合	61
宮城 学院	々
三ヶ田礼一	平4
宮城 正俊	7
三島 学園	12
宮城県多賀城跡調査研究所	13
宮城 光信	18
宮城県新生物レジストリー委員会	25
宮城M A X	々
宮城県芸術協会	26

【む】

村田 柴太	昭59
村上 孝一	平5
村上定一郎	々
武藤 順九	令元

【め】

明成高等学校調理科リエゾンキッチン	平23
明成高等学校男子バスケットボール部	28

【も】

森 嘉兵衛	昭36
本宮小学校 (福島県)	38

	年度
森口 多里	昭39
百足 泰守	41
毛利総七郎	42
毛 越 寺	49
最上梅檀会	平3
森田 智己	16

【や】

山形県婦人連盟	昭31
山口弥一郎	33
谷村株式会社新興製作所	35
山本美喜雄	38
柳田 英明	47
山形県立山形西高等学校合唱団	48
山形交響楽団	53
山形大学北村昌美教授研究グループ	55
八重樫 剛	平3
山形国際ドキュメンタリー 映画祭実行委員会	16
八百 隆文	22
山寺文化保存会	23
山本 雅之	令2

【ゆ】

結城哀草果	昭34
結城登美雄	平23

【よ】

吉岡覚太郎	昭36
吉池慶太郎	40
横山 満子	41
吉田 孤羊	42
吉岡 邦二	51
吉田 豊	平7
吉村 昇	22

【わ】

渡辺 慈朗	昭38
渡辺 颯二	39
若林 彊	40
和田 正美	45
渡辺 セツ	49
渡部 忍	平4
わらび座 (秋田県田沢湖町)	13
早稲田嘉夫	令元

	年度
東奥義塾高等学校スキー部	53
東北大学漕艇部	55
東北学院	61
遠野物語ファンタジー制作委員会	62
東北福祉大学硬式野球部	平3
登米謡曲会	4
東北いもち病発生予察研究グループ	11
東北福祉大学体育会ゴルフ部	17
富永 忠弘	20
土門拳記念館	々
東北大学災害科学国際研究所	29
富田 勝	30
豊島 英	令3

【な】

永井 健三	昭28
中川善之助	35
夏井 昇吉	37
南部 松夫	55
永野 孫柳	々
南光学園東北高等学校	平6
成瀬 忠行	12
中戸 俊洋	22
中沢 正隆	26

【に】

二村 忠元	昭30
日本化学研究会	31
西川町立大井沢自然博物館	33
仁科 利英	々
乳井 義耀	40
西山 正治	47
西澤 潤一	60
新野 直吉	平元
錦戸光一郎	19
新田 嘉一	26
認定特定非営利活動法人パンダハウスを育てる会	29

【ぬ】

額賀 誠	昭31
------	-----

【の】

野田起一郎	昭44
農林省果樹試験場盛岡支場リンゴふじ育成グループ	49
農林省東北農業試験場栽培第一育成グループ	50
野口 正一	平2
能島 康明	9
能島 和明	25

【は】

	年度
畑中 正吉	昭48
橋本八百二	50
針生 嘉孝	52
八戸市立根城中学校合唱部	63
半田 康延	平10
畑井美枝子	13
畠山 重篤	15
針生 乾馬	22
羽生 結弦	26
長谷川史彦	令2
花田 修治	3
張本 智和	々

【ひ】

平田 森三	昭33
平山 諦	47
弘前大学日本海中部地震研究会	59
日蔭 暢年	60
桧枝岐歌舞伎・千葉之家花駒座	平2
平野早矢香	24
久道 茂	30

【ふ】

富士製鉄釜石製鉄所工務部並びに 東北大学工学部成瀬研究室	昭28
藤村 徳三	33
藤岡 一男	40
福井 文彦	42
富士製鉄釜石製鉄所ラグビー部	43
藤島清太郎	49
深道 和明	52
福島県立安積女子高等学校合唱団	58
福島県カヌー協会	平7
藤原 哲郎	8
古川商業高校女子バレーボール部	11
藤村 重文	12
福田 承生	19
古川 高晴	24
福原 愛	々
福田 寛	令元
福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センター	3
藤本 怜央	々

【ほ】

本間美術館	昭36
堀田 秀之	39
本田 安次	46
法華三郎信房	53
本間 敏夫	61

	年度		年度
【し】		仙台・青葉まつり協賛会	令 2
渋川伝次郎	昭30	【そ】	
渋谷 洪衛	32	相馬野馬追保存会	昭62
庄司吉之助	37	曾根 敏夫	平 9
荘司 福	〃	【た】	
下平 三郎	40	田口 啓作	昭27
島影せい子	47	只見川調査所関係所員	〃
司東 真雄	53	高橋喜三郎	28
渋谷栄太郎	54	田中 稔	〃
新日本製鉄釜石製鉄所ラグビー部	57	武田忠一郎	29
尚綱女学院	平 5	館山 甲午	38
紫桃 正隆	7	高橋とも子	44
種雄牛造成推進グループ（宮城県）	14	竹本 常松	50
首藤 伸夫	17	高橋 喜平	55
定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会	22	竹内 利美	58
【す】		高橋 富雄	59
鈴木 弼美	昭30	瀧島 任	63
杉山 尚	47	高橋 孝文	平 2
杉本 行雄	48	田村 桃溪	6
鈴木千賀志	49	高橋 敬典	8
菅原弥三郎	51	高橋 孝	13
須藤 克三	54	胆江地域アテルイ、モレ顕彰グループ	14
鈴木 二郎	56	高倉 健	20
鈴木 武夫	57	高橋 礼華・松友美佐紀	
杉村 惇	58	バドミントン女子ダブルスペア	28
末永 喜三	62	高野ムツオ	令 2
鈴木 寛	平 9	【ち】	
菅原 一宇	10	千葉あやの	昭37
鈴木亜弥子	令 3	致道博物館	46
【せ】		千葉 仁	48
仙台管区气象台	昭27	千葉 二郎	平 6
石油資源開発株式会社秋田鉱業所	35	千田 健太	24
仙台市立五橋中学校	45	【つ】	
仙台市立病院	47	円谷 幸吉	昭39
芹澤 長介	60	土屋 瑞穂	平27
仙台いのちの電話	平 4	【て】	
仙台赤十字病院周産期センター		T D K 硬式野球部	平18
新生児未熟児集中治療部門	〃	【と】	
仙台育英学園高校陸上競技部	5	東北高校漕艇部	昭26
仙台白百合学園	〃	富樫兼治郎	29
全国花火競技大会		土居 光知	30
「大曲の花火」実行委員会	8	富田 兼康	36
仙台フィルハーモニー管弦楽団	11	東北地方建設局岩手工事事務所	44
仙道富士郎	16	富岡 重憲	45
SENDAI 光のページェント実行委員会	17		
仙台育英学園	〃		
仙台市医療センター仙台オープン病院	18		
仙台オペラ協会	27		

	年度		年度
小原日登美	平24	小和田敏子	昭45
大友 愛	24	国体福島県自転車チーム	59
大井 龍司	28	光星学院高等学校レスリング部	60
太田 忍	々	後藤 由夫	61
オリエンタルカーペット	令2	小松 寛治	平8
小野 恬	3	康楽館(秋田県小坂町)	12
		小林 清治	15
【か】		郡山市立郡山第二中学校合唱部	17
海鋒 義美	昭26	五所川原立佞武多運営委員会	19
片山 知又	31	郡山市立郡山第五中学校合唱団	28
鎌田 徳治	32	国立天文台水沢 VLBI 観測所	令元
加藤陸奥雄	36	越村 俊一	3
勝平 得之	々	国宝大崎八幡宮 仙台・江戸学実行委員会	々
神永 昭夫	39		
菅野 廉	46	【さ】	
河野 満	52	佐藤 博治	昭27
上山市中川福祉村	56	作左部 忠	28
海藤 勇	58	佐野 保	33
利部 陽子	59	酒井 馨	35
加藤 翠柳	61	佐藤利三郎	37
加藤 治郎	62	佐々木栄一	38
加美山茂利	平2	酒井軍治郎	41
川上彰二郎	14	笹原 正三	々
上林 恒平	21	佐々木寅次郎	44
加藤 条治	22	斎藤莊次郎	45
川島 隆太	24	佐藤 哲夫	47
片岡 良和	々	澤井 七郎	51
嘉山 孝正	27	斎藤 英夫	52
		佐々 久	54
【き】		佐藤 丑蔵	々
菊池 喜充	昭32	斉藤 仁	59
木村 基弥	38	坂本 勉	々
木下 彰	52	佐藤 壽雄	62
桔 棹 吟社(須賀川市)	平14	斎藤 清	63
北上川流域市町村連携協議会	16	佐伯 昭雄	々
株式会社菊池製作所	27	佐藤 満	々
		佐藤 鬼房	平元
【く】		佐々木一郎	々
九嶋 勝司	昭44	佐藤儀一郎	2
黒川 能座	46	佐藤 忠良	3
黒森歌舞伎	47	斎藤 博	7
工藤 章	51	佐藤喜代治	8
沓澤 則雄	平28	佐原 得司	9
		佐藤 俊一	10
【こ】		佐藤 巧	11
近藤 正二	昭27	斎藤 春香	12
国分 謙吉	31	佐々木武彦ほか、ひとめぼれ育成グループ	々
後藤 桃水	34	佐武 正雄	14
小坂鉦業所	36	佐藤 英明	23
後藤 秀弘	37	佐々木宗生	25

河北文化賞受賞者 =50音別索引=

【あ】	年度		年度
阿部みどり女	昭30	井口 泰孝	平10
秋田市竿灯会	34	石田名香雄	15
秋田県農村医学会	39	今泉 清	〃
秋田大学八郎潟研究委員会	43	伊調 馨	16
秋田県立秋田工業高等学校ラグビー部	44	伊調 千春	〃
青森県水産増殖センター	46	泉 浩	〃
有井 凌雲	51	池月道の駅	18
秋田県立能代工業高等学校バスケットボールチーム	〃	田舎館村むらおこし推進協議会	24
荒木田裕子	〃	石田 清仁	26
天江 富弥	56	岩手県立不来方高等学校音楽部	29
秋田市立城東中学校野球部	57	今井 邦男	30
赤石 光生	59		
安彦ひさ子	平元	【う】	
秋田県農試「あきたこまち」育成グループ	3	宇田新太郎	昭26
浅利 純子	5	内田 武志	45
青木富美子	6	宇野 松仙	51
ありのまま舎	7	内田 龍男	平21
阿部 良樹	10		
青森山田高校卓球部男子	11	【え】	
荒川 静香	16	遠藤 幸雄	昭39
赤坂 憲雄	19	FMC混声合唱団	43
安部 英子	21	遠藤 忠雄	50
淡路 卓	24	遠藤 純男	51
青木 孝文	25	江刺 正喜	平16
会津大学産学イノベーションセンター	令元	遠藤 正彦	20
		江畑 幸子	24
		蛭名 武雄	30
【い】			
伊東 信雄	昭31	【お】	
今井 史郎	32	小倉 強	昭26
今井 丈夫	34	太田麻之助	〃
伊藤 定雄	38	大原菅一郎	29
一ノ関史郎	39	太田口政治	〃
岩崎 敏夫	40	小島 武雄	〃
池田 徹郎	42	大坂 鷹司	31
猪股 一二	46	太田孝太郎	34
今泉 亀撤	48	小野 喬	39
岩手県住田町農業総合指導協議会	50	大内 仁	〃
岩手県志和農業協同組合	54	奥津 春生	43
板橋 源	56	大山 功	52
岩手県立沼宮内高等学校女子ホッケー部	〃	扇畑 忠雄	54
岩崎 敏夫	57	太田 祖電	58
岩間 正男	60	太田 章	59
五十嵐幸一	61	小野寺久幸	平6
伊豆沼管理協議会	63	大場 満郎	9
岩崎 俊一	平元	大迫研究グループ（代表今井潤）	13
稲場 文男	4	扇畑 利枝	15
和泉 修	7		

部門	年度	氏名	
社会活動	49	渡辺 セツ	
	51	澤井 七郎	
	56	上山市中川福祉村	
	57	鈴木 武夫	
	58	太田 祖電	
	59	村田 柴太	
	61	学校法人 東北学院	
	62	学校法人 宮城学院	
	〃	〃	相馬野馬追保存会
	〃	平元	安彦 ひさ子
	〃	2	高橋 孝文
	〃	3	社会福祉法人 最上梅檀会
	〃	4	仙台いのちの電話
	〃	5	学校法人 尚綱女学院
	〃	〃	学校法人 仙台白百合学園
	〃	6	学校法人 南光学園東北高等学校
	〃	7	ありのまま舎
	〃	8	小松 寛治
	〃	9	鈴木 寛
	〃	10	学校法人 朴沢学園
	〃	12	学校法人 三島学園
	〃	13	高橋 孝
	〃	14	胆江地域アテルイ、モレ顕彰グループ
	〃	15	畠山 重篤
	〃	16	北上川流域市町村連携協議会
	〃	17	SENDAI 光のページェント 実行委員会
	〃	〃	学校法人 仙台育英学園
	〃	18	仙台市医療センター仙台オープン病院
	〃	19	錦戸 光一郎
	〃	〃	五所川原立佞武多運営委員会
	〃	20	富永 忠弘
	〃	21	安部 英子
	〃	22	吉村 昇
	〃	〃	中戸 俊洋
	〃	〃	定禅寺ストリートジャズフェスティバル 実行委員会
	〃	23	結城 登美雄
〃	〃	明成高等学校調理科リエゾンキッチン	
〃	24	田舎館村むらおこし推進協議会	
〃	25	青木 孝文	
〃	26	新田 嘉一	
〃	29	認定特定非営利活動法人 パンダハウスを育てる会	
〃	〃	星 寛治	
〃	令2	仙台・青葉まつり協賛会	
〃	3	国宝大崎八幡宮 仙台・江戸 学実行委員会	

部門	年度	氏名
社会活動	3	福島県立医科大学ふくしま 国際医療科学センター

部門	年度	氏名
体育	24	古川高晴
〃	〃	福原愛
〃	〃	平野早矢香
〃	〃	千田健太
〃	〃	淡路卓
〃	〃	江畑幸子
〃	〃	大友愛
〃	25	宮城 M A X
〃	26	羽生結弦
〃	28	高橋礼華・松友美佐紀
〃	〃	バドミントン女子ダブルスペア
〃	〃	太田忍
〃	〃	明成高等学校男子バスケットボール部
〃	令3	張本智和
〃	〃	鈴木亜弥子
〃	〃	豊島英
〃	〃	藤本怜央
産業	昭26	太田麻之助
〃	27	仙台管区气象台
〃	〃	只見川調査所関係所員
〃	28	田中稔
〃	〃	富士製鉄釜石製鉄所工務部並びに 東北大学工学部成瀬研究室
〃	29	小島武雄
〃	〃	富樫兼治郎
〃	30	洪川伝次郎
〃	31	片山知又
〃	〃	国分謙吉
〃	32	菊池喜充
〃	〃	宮城県立農業試験場古川分場
〃	〃	洪谷洪衛
〃	33	藤村徳三
〃	〃	平田森三
〃	〃	仁科利英
〃	35	酒井馨
〃	〃	石油資源開発株式会社秋田鉱業所
〃	〃	谷村株式会社新興製作所
〃	36	吉岡覚太郎
〃	〃	小坂鉱業所
〃	39	堀田秀之
〃	〃	渡辺穎二
〃	41	百足泰守
〃	45	斎藤莊次郎
〃	46	青森県水産増殖センター
〃	48	畑中正吉
〃	〃	杉本行雄
〃	49	農林省果樹試験場盛岡支場 リングふじ育成グループ

部門	年度	氏名
産業	50	遠藤忠雄
〃	〃	岩手県住田町農業総合指導協議会
〃	〃	農林省東北農業試験場栽培 第一部育成グループ
〃	52	木下彰
〃	54	岩手県志和農業協同組合
〃	61	志津川町漁業協同組合
〃	62	末永喜三
〃	63	佐伯昭雄
〃	平元	佐々木一郎
〃	3	秋田県農業試験場「あきた こまち」育成グループ
〃	4	渡部忍
〃	5	本間正雄
〃	〃	村上定一郎
〃	8	全国花火競技大会 「大曲の花火」実行委員会
〃	9	佐原得司
〃	11	東北いもち病発生予察研究グループ
〃	12	佐々木武彦ほか、ひとめぼれ 育成グループ
〃	14	種雄牛造成推進グループ（宮城県）
〃	15	石田名香雄
〃	〃	今泉清
〃	16	江刺正喜
〃	18	池月道の駅
〃	21	星野次汪
〃	22	八百隆文
〃	27	株式会社菊池製作所
〃	28	牧野彰宏
〃	29	松岡隆志
〃	30	蛭名武雄
〃	〃	堀切川一男
〃	令元	会津大学産学イノベーションセンター
〃	2	オリエンタルカーペット
〃	〃	長谷川史彦
〃	3	越村俊一
社会活動	昭30	鈴木弼美
〃	31	大坂鷹司
〃	〃	山形県婦人連盟
〃	33	佐野保
〃	35	中川善之助
〃	38	本宮小学校（福島県）
〃	40	吉池慶太郎
〃	42	宮城県更正育成医療整形外科 指定医協議会
〃	44	佐々木寅次郎
〃	47	仙台市立病院

部門	年度	氏名	
芸術	16	山形国際ドキュメンタリー 映画祭実行委員会	
	17	郡山市立郡山第二中学校合唱部	
	20	高倉 健	
	〃	土門拳記念館	
	21	上林恒平	
	22	針生乾馬	
	23	山寺文化保存会	
	24	片岡良和	
	25	能島和明	
	〃	佐々木宗生	
	26	宮城県芸術協会	
	27	仙台オペラ協会	
	〃	土屋瑞穂	
	28	沓澤則雄	
	〃	郡山市立郡山第五中学校合唱団	
	29	岩手県立不來方高等学校音楽部	
	30	今井邦男	
	〃	令元 武藤順九	
	2	高野ムツオ	
	3	小野恬	
	体育	昭26	東北高校漕艇部
		27	佐藤博治
		28	作左部忠
		〃	高橋喜三郎
		29	太田口政治
		31	額賀誠
		32	鎌田徳治
		36	小牛田農林高校剣道部
		37	夏井昇吉
		38	鼎が浦高校フェンシング班
39		小野喬	
〃		遠藤幸雄	
〃		三宅義信	
〃		円谷幸吉	
〃		神永昭夫	
〃		一ノ関史郎	
〃		大内仁	
40		乳井義耀	
41		笹原正三	
〃		横山満子	
43	富士製鉄釜石製鉄所ラグビー部		
〃	三宅義行		
44	秋田工業高校ラグビー部		
〃	高橋とも子		
45	小和田敏子		
46	猪股一二		
47	柳田英明		

部門	年度	氏名
体育	47	佐藤哲夫
	〃	島影せい子
	48	千葉仁
	〃	51 秋田県立能代工業高校 バスケットボールチーム
	〃	荒木田裕子
	〃	遠藤純男
	〃	菅原弥三郎
	〃	工藤章
	52	河野満
	〃	53 東奥義塾高校スキー部
	〃	55 東北大学漕艇部
	〃	56 岩手県立沼宮内高校女子ホッケー部
	〃	57 新日鉄釜石ラグビー部
	〃	〃 秋田市立城東中学校野球部
	59	国体福島県自転車チーム
	〃	〃 斉藤仁
	〃	〃 太田章
	〃	〃 赤石光生
	〃	〃 坂本勉
	〃	〃 利部陽子
	〃	60 日蔭暢年
	〃	〃 光星学院高校レスリング部
	〃	61 五十嵐幸一
	〃	63 佐藤満
	平2	佐藤儀一郎
	〃	3 東北福祉大学硬式野球部
	〃	〃 八重樫剛
	〃	4 三ヶ田礼一
	〃	5 浅利純子
	〃	〃 仙台育英学園高校陸上競技部
〃	6 堀籠敬蔵	
〃	〃 青木富美子	
〃	7 福島県カヌー協会	
〃	9 大場満郎	
〃	10 阿部良樹	
〃	11 古川商業高校女子バレーボール部	
〃	〃 青森山田高校卓球部男子	
〃	12 斎藤春香	
〃	16 荒川静香	
〃	〃 伊調馨	
〃	〃 伊調千春	
〃	〃 泉浩	
〃	〃 森田智己	
〃	17 東北福祉大学体育会ゴルフ部	
〃	18 TDK硬式野球部	
〃	22 加藤条治	
〃	24 小原日登美	

部門	年度	氏名
学術	10	星 宮 望
	〃	〃 井 口 泰 孝
	〃	〃 〃 半 田 康 延
	〃	〃 〃 佐 藤 俊 一
	〃	11 佐 藤 巧
	〃	12 藤 村 重 文
	〃	13 宮城県多賀城跡調査研究所
	〃	〃 大迫研究グループ (代表今井潤)
	〃	14 川 上 彰二郎
	〃	〃 佐 武 正 雄
	〃	15 小 林 清 治
	〃	16 仙 道 富 士 郎
	〃	17 首 藤 伸 夫
	〃	18 宮 城 光 信
	〃	19 福 田 承 生
	〃	〃 赤 坂 憲 雄
	〃	20 遠 藤 正 彦
	〃	21 内 田 龍 男
	〃	23 佐 藤 英 明
	〃	24 川 島 隆 太
	〃	25 宮城県新生物レジストリー委員会
	〃	26 石 田 清 仁
	〃	〃 中 沢 正 隆
	〃	27 嘉 山 孝 正
	〃	28 大 井 龍 司
	〃	29 東北大学災害科学国際研究所
	〃	30 久 道 茂
	〃	〃 富 田 勝
	〃	令元 早 稲 田 嘉 夫
〃	〃 福 田 寛	
〃	〃 国立天文台水沢 VLBI 観測所	
〃	2 山 本 雅 之	
〃	3 花 田 修 治	
芸術	昭29	武 田 忠 一 郎
	〃	30 阿 部 み どり 女
	〃	34 後 藤 桃 水
	〃	〃 秋 田 市 竿 灯 会
	〃	〃 結 城 哀 草 果
	〃	35 三 原 良 吉
	〃	36 勝 平 得 之
	〃	37 荘 司 福
	〃	〃 千 葉 あ や の
	〃	38 館 山 甲 午
	〃	39 森 口 多 里
	〃	40 岩 崎 敏 夫
	〃	42 吉 田 孤 羊
	〃	〃 福 井 文 彦
	〃	43 F M C 混声合唱団

部門	年度	氏名
芸術	45	内 田 武 志
	〃	〃 〃 仙台市立五橋中学校
	〃	46 菅 野 廉
	〃	〃 〃 黒 川 能 座
	〃	〃 〃 致 道 博 物 館
	〃	〃 〃 本 田 安 次
	〃	47 黒 森 歌 舞 伎
	〃	48 山形県立山形西高校合唱団
	〃	〃 〃 毛 越 寺
	〃	49 藤 島 清 太 郎
	〃	50 橋 本 八 百 二
	〃	51 宇 野 松 仙
	〃	〃 〃 有 井 凌 雲
	〃	52 針 生 嘉 孝
	〃	〃 〃 大 山 功
	〃	53 山形交響楽団
	〃	〃 〃 法 華 三 郎 信 房
	〃	54 扇 畑 忠 雄
	〃	〃 〃 洪 谷 栄 太 郎
	〃	〃 〃 須 藤 克 三
	〃	〃 〃 佐 藤 丑 蔵
	〃	55 永 野 孫 柳
	〃	57 真 壁 仁
	〃	58 福島県立安積女子高校合唱団
	〃	〃 〃 杉 村 惇
	〃	59 宮 地 房 江
	〃	60 岩 間 正 男
	〃	61 加 藤 翠 柳
	〃	62 遠野物語ファンタジー制作委員会
	〃	63 斎 藤 清
〃	〃 〃 八 戸 市 立 根 城 中 学 校 合 唱 部	
〃	平元 佐 藤 鬼 房	
〃	2 桜 枝 岐 歌 舞 伎 ・ 千 葉 之 家 花 駒 座	
〃	3 佐 藤 忠 良	
〃	4 登 米 謡 曲 会	
〃	6 田 村 桃 溪	
〃	〃 〃 小 野 寺 久 幸	
〃	7 宮 城 正 俊	
〃	8 高 橋 敬 典	
〃	9 能 島 康 明	
〃	10 菅 原 一 宇	
〃	11 仙 台 フ ィ ル ハ ー モ ニ ー 管 弦 楽 団	
〃	12 成 瀬 忠 行	
〃	〃 〃 康 楽 館 (秋 田 県 小 坂 町)	
〃	13 畑 井 美 枝 子	
〃	〃 〃 劇 団 わ ら び 座 (秋 田 県 田 沢 湖 町)	
〃	14 桔 槔 吟 社 (須 賀 川 市)	
〃	15 扇 畑 利 枝	

河北文化賞受賞者 =部門別索引=

部門	年度	氏名	部門	年度	氏名
学術	昭26	海鋒義美	学術	48	今泉亀撤
〃	〃	小倉強	〃	49	鈴木千賀志
〃	〃	宇田新太郎	〃	50	竹本常松
〃	27	近藤正二	〃	51	吉岡邦二
〃	〃	田口啓作	〃	52	斎藤英夫
〃	28	永井健三	〃	〃	深道和明
〃	29	大原嘗一郎	〃	53	宮川善造
〃	30	二村忠元	〃	〃	司東真雄
〃	〃	土居光知	〃	54	佐々久
〃	31	伊東信雄	〃	55	南部松夫
〃	〃	日本化学研究会	〃	〃	高橋喜平
〃	32	今井史郎	〃	〃	山形大学農学部北村昌美教授
〃	33	西川町立大井沢自然博物館	〃	〃	研究グループ
〃	〃	山口弥一郎	〃	56	鈴木二郎
〃	34	今井丈夫	〃	〃	板橋源弥
〃	〃	太田孝太郎	〃	〃	天江富敏夫
〃	36	本間美術館	〃	57	岩崎利美
〃	〃	富田兼康	〃	58	竹内勇雄
〃	〃	加藤陸奥雄	〃	〃	海藤富雄
〃	〃	森嘉兵衛	〃	59	高橋富雄
〃	37	後藤秀弘	〃	〃	弘前大学日本海中部地震研究会
〃	〃	佐藤利三郎	〃	60	芹澤長介
〃	〃	庄司吉之助	〃	〃	西澤潤一
〃	38	木村甚弥	〃	61	後藤由夫
〃	〃	山本美喜雄	〃	〃	本間敏夫
〃	〃	渡辺慈朗	〃	62	加藤治郎
〃	〃	佐々木栄一	〃	〃	佐藤寿雄
〃	〃	伊藤定雄	〃	63	伊豆沼管理協議会
〃	39	秋田県農村医学会	〃	〃	瀧島任
〃	40	藤岡一男	〃	平元	岩崎俊一
〃	〃	下平三郎	〃	〃	新野直吉
〃	〃	若林彊	〃	2	野口正一
〃	41	酒井軍治郎	〃	〃	加美山茂利
〃	〃	宮城県対がん協会	〃	3	増本健
〃	42	池田徹郎	〃	4	稻場文男
〃	〃	毛利総七郎	〃	〃	仙台赤十字病院周産期センター
〃	43	秋田大学八郎潟研究委員会	〃	〃	新生児未熟児集中治療部門
〃	〃	奥津春生	〃	5	村上孝一
〃	44	九嶋勝司	〃	6	千葉二郎
〃	〃	野田起一郎	〃	7	和泉修
〃	〃	東北地方建設局岩手工事事務所	〃	〃	吉田豊
〃	45	和田正美	〃	〃	斎藤博
〃	〃	富岡重憲	〃	〃	紫桃正隆
〃	47	杉山尚	〃	8	佐藤喜代治
〃	〃	平山諦	〃	〃	藤原哲郎
〃	〃	西山正治	〃	9	曾根敏夫

本団役員、評議員

2022年

1月1日現在

理事長	一力 雅彦	株式会社河北新報社代表取締役社長	評議員	河端 章好	宮城県美術館館長
常務理事	鈴木 紳一	株式会社河北新報社常務取締役 事業・ビジネス戦略担当	同	平川 新	東北大学名誉教授
理事	大野 英男	東北大学総長	同	向田 吉広	東北自然エネルギー株式会社 取締役会長
同	藤本 章	仙台市副市長	同	青木 直之	公益財団法人宮城県文化振興財団 理事長
同	里見 進	独立行政法人日本学術振興会 理事長	同	濱田 直嗣	宮城県慶長使節船ミュージアム館長
同	三林 宏幸	東日本旅客鉄道株式会社 執行役員仙台支社長	同	佐藤 良一	公益財団法人仙台スポーツ振興 事業団理事長
同	長谷川 登	東日本興業株式会社取締役社長	同	長瀬 直之	公益財団法人東北放送文化事業団 事務局長
同	大場 尚文	公益社団法人宮城県芸術協会名誉会員	同	佐藤 純	株式会社河北新報社専務取締役
同	氏家 悟	東北放送株式会社常務取締役			
監事	鈴木 隆	株式会社仙台銀行取締役頭取			
同	練生川 雅志	株式会社河北新報社常務取締役 管理担当			